

イン・ロゼワインコーナーに分かれていました。各通路の中央にはワイン樽がテーブル代わりに等間隔で並び、その上には約10本ずつの開栓された試飲用のワインが置かれていました。ワイン樽の両側には、販売用のワインが銘柄ごとに棚に寝かされていました。ワインは作り方やぶどうの種類、味（辛口～中口～甘口、軽口～中口～重口）により大まかに分けられて、順に置かれていました。一度にこれだけの数のワインを眺めるのは初めてで、壮観な風景でした。お気に入りの美味しいワインを探しながら、ラベルを見て興味を持ったワインを飲み比べ、楽しく試飲を続けました。ワインの銘柄が多く、飲んでいながら、どれが美味しかったのか、よくわからなくなりました。また、研究分野が離れていて、これまであまり交流がなかった参加者

の方々とも、ワインを通じて会話がはずみ、親睦を深めることができました。やがて集合時間となり、参加者の多くはほろ酔い気分、バスまで戻りました。バスは18時頃甲府駅前に到着し、解散となりました。

普段は外国産のワインを飲む機会が多いのですが、このエクスカッションに参加して、山梨ワインの多様さ、奥深さ、美味しさを体験することができ、大変楽しい時間を過ごせました。また、甲府盆地に桃源郷を感じました。大会準備でお忙しい中、今回のエクスカッションの企画とお世話を下さった山梨大学の御園生先生や関係者の方々のご厚意に心より感謝申し上げます。

(京都大学大学院人間・環境学研究所)

藻見遊山

LIXIL ギャラリー企画展

「海藻 海の森のふしぎ」展

Seaweeds, Wondrous Forests of the Sea

2013年6月8日(土)～7月23日(火)

真偽のほどは定かではないけれども、安土桃山時代、豊臣秀吉が大坂城を築城する際、巨石を運ぶ轆を滑らせるために大量の昆布（実際にはカジメなのではないか）が使われたらしい。その城下町でいま、海藻の企画展が開催されている。テーマは、身近だがよく知られていない海の植物、海藻の不思議な世界をいろいろな分野から紹介するというもので、「建築とデザインとその周辺」を巡って独自の視点で多彩な企画展を連発しているLIXILが制作し、それに神戸大学内海域環境教育研究センター、国立科学博物館、名古屋大学博物館、北海道大学理学研究院などが協力している。藻類学会員からは、野田三千代氏（海藻おしば協会）が「海藻おしば」を約100点を、川井浩史氏（神戸大学）が「瀬戸内海海産藻類標本集」から厳選40種のエキシカータ標本を出品されている。筆者も国立科学博物館が所蔵する岡村金太郎著『日本藻類図譜』の原図20数点を出品した。今回のような規模で公開されたことはこれまでにない。この原図は岡村先生が『図譜』のために水彩で描かれたものだが、実際に印刷・出版された図版ではそれを基に画工が単色刷用に描き直しているの、長年『図譜』を愛読し、図版を凝視してこられた海藻研究者がご覧になれば、オリジナルの肉筆がもつ鮮やかな色彩に仰天されること必至である。

企画展開催と同時に、展示図録に相当する“Booklet”が書店で販売されている。その内容については、いずれ当誌の書評で紹介されることを期待したい。また、大阪会場が終了後、時期未定ながら東京でも開催を予定しているとのことである。

(北山太樹)

【LIXILギャラリー大阪】

開館時間：午前10時～午後5時

休館日：毎週水曜日

入館料：無料

所在地：大阪府大阪市中央区久太郎町4-1-3 伊藤忠ビル1F

交通：御堂筋線・中央線本町駅、14号出口

問合せ：Tel 06-6733-1790 Fax 06-6733-1791 URL：<http://www1.lixil.co.jp/gallery/>